STL 助成金

事業概要

STL（Students Launch）助成金は、本学学生が主体的に取り組む活動のうち、地域活性化に寄与し、成果が期待されるプロジェクトに対して活動費を助成する制度です。学生が自ら企画・実践する取り組みを支援することで、地域課題の解決に向けた実践的な学びの機会を創出しています。

2025 年度は 12 件の申請があり、書類審査およびプレゼンテーション審査を経て、11 件のプロジェクトが採択されました。採択団体は地域団体や企業、住民と連携しながら、多様な地域活動を展開しました。

［ スケジュール ］

時期	内容
2025 年 4 月	申請書提出・書類審査・結果通知（継続枠）
2025 年 5 月	申請書提出・プレゼンテーション審査・結果通知（新規枠）
2025 年 10 月～ 11 月	申請書提出・書類審査・結果通知（後学期追加配分）
2026 年 3 月	成果報告会

STL 採択プロジェクトの紹介

GrowSpiral

GrowSpiral プロジェクトは、2023 年度 NEXT 産業創造プログラムの PBL において、株式会社 Lifexia のイントレプレナー事業として立ち上げられました。学生の視点による社会課題の解決と、実践的な学びの場の創出を目的に活動しています。

2025 年度は、地域資源を活用した商品の魅力発信として、「キキョウブランド」や美容ブランド「しるくのもと」などを活用したイベントの企画・出展を行い、商品の認知拡大に取り組みました。また、北近畿の地域資源であるオリーブの未活用素材に着目し、B 型就労支援施設と連携して焼き菓子「オリーブフリアン」を企画・開発しました。地域資源と福祉を結びつけた、地域共創型のお土産づくりを進めています。

さらに、「オリーブフリアン」の認知拡大と市場ニーズの検証を目的としてクラウドファンディングを実施し、商品の背景にあるストーリーや社会的価値の発信を行いました。

これらの活動を通じて、学生が地域企業や福祉施設と協働しながら、商品企画・開発からマーケティングまでを実践的に学ぶ機会を創出するとともに、地域資源の新たな価値創出と認知向上につなげています。

B 型就労支援施設と企画・開発した「オリーブフリアン」

「オリーブフリアン」クラウドファンディングを実施

アグリサーキュラーデザイン in Fukuchiyama

アグリサーキュラーデザイン in Fukuchiyama では、地域の企業や農家から出た規格外品や廃棄ロスを活用した商品開発やメニュー開発、プロモーションから販売までを行っています。今年度は GrowSpiral と共に B 型就労施設の工賃問題と廃棄ロスという社会課題を同時に解決する仕組みづくりを目指す「オリーブフリアンプロジェクト」を進めてきました。このプロジェクトにおいて、フリアンの試作からパッケージデザイン、クラウドファンディングでの宣伝など幅広く活動してきました。

また、広報とフリアンプロジェクトのさらなる発展を目指し、第 3 回カルチャーフェスティバルでのポスター展示も行いました。

オリーブ農家を訪問し廃棄ロスに向き合う

第 3 回カルチャーフェスティバルでの展示ポスター

Tsunaga Room プロジェクト

「Tsunaga Room プロジェクト」は、「地方創生」をミッションに掲げて活動しています。運営するフリースペースでは、委託販売サービス「ハコカラ」を展開し、日本各地のクリエイターと地域住民をつなぐ仕組みづくりに取り組んでいます。

フリースペースでイベントが開催される様子

日本各地のクリエイター作品が集う「ハコカラ」

2025 年度は、ご利用いただくクリエイターが 50 組を超え、多くの方々にご来場いただきました。ベビーカーに乗ったお子さんから 93 歳の高齢の方まで、世代を超えた多様な交流が生まれたことも、本プロジェクトの大きな成果の一つだと考えています。

また、「利用者から利用料を取らない」という持続可能な運営モデルを追求し、地域の方々に負担をかけることなく日常的な接点を生み出すことで、地域の活性化に寄与しています。

Drip Link

「Drip Link」は、コーヒーをきっかけに学生と地域住民が自然につながる場をつくることを目的に活動する学生団体です。

2025 年度では、新町商店街にある Tsunaga Room にて土日のカフェ営業を継続し、地域の方が気軽に立ち寄れる交流の場づくりに取り組みました。また、市内のコーヒー焙煎所「Enjoy Coffee Roastery」の協力のもとオリジナルブレンドコーヒーを制作し、市内のベーグル専門店「福知山ベーグル研究所」と学祭でのフードコラボ出店も実施しました。さらに、コーヒー飲み比べイベントや市内の養蜂場「Honey Rock」との共同イベントを開催し、地域企業と連携した交流の機会を広げました。

ブレンドコーヒー制作にご協力いただいた「Enjoy Coffee Roastery」

大盛況となった「Honey Rock」との共同イベント

これらの活動の中で、参加者同士の新たなつながりが生まれ、地域に根ざした団体として一歩ずつ実績を積み重ねた 1 年となりました。

Nexus

本プロジェクト「Nexus」は、福知山市においてバドミントンを通した地域交流と練習環境の提供を目的として立ち上がりました。福知山市では体育館の一般開放が少なく、市民や中学生・高校生が部活動以外で気軽にバドミントンをする機会が多くないという課題があります。そのため、バドミントンをきっかけに地域の人々と中高生がつながる場をつくり、スポーツを通して地域交流を生み出すことを目指しました。2025 年度は当初想定していた形での事業実施には至りませんでしたが、活動の過程では地域のバドミントンサークルの方々と交流する機会があり、地域と関わりながら活動することの大切さを感じました。

スポーツを通して地域交流を生み出すことを目指す

IT お困り相談室プロジェクト

IT お困り相談室は、大学の AI サークル「FGR」メンバーが、福知山市の IT リテラシー向上に貢献したいという思いから立ち上げた学生プロジェクトです。

月 2 回の相談会を継続開催し、スマホの基本操作からアプリの導入・登録、各種設定、データ移行まで幅広い困りごとを対面でサポートしました。

学生が分かりやすい言葉で伴走し、世代を超えた交流の場にも。地域の方が“自分でできた”と感じられる成功体験を積み重ね、デジタル活用の一歩を後押ししました。

月2回開催のITお困り相談室

世代を超えた交流の場にもなった

子どもの居場所づくりプロジェクト きっずすとぅにーる

「子どもの居場所づくりプロジェクト きっずすとぅにーる」は、大学生と子どもたちが一緒に食事をし、遊びや勉強を通じて、互いに安心して自由で楽しい時間を過ごせる場所です。活動を通して、保護者が自分の時間を持てることも考え、親子それぞれで充実した時間になるように取り組んでいます。活動は夏期（8 月･9 月）および冬期（2 月･3 月）を除く、毎月第 3 火曜日を基本として行っています。

2025 年度は、新規の子どもたちが増え、この活動が地域の人たちに広がっていることを実感しました。これまでの運営の見直しを行うと共に、今後の課題がよくわかり、来年度のより良い運営に繋げていく 1 年でした。

本学学生食堂で大学生と子どもたちが交流する様子

nicoful

「nicoful」では、大学生の強みを最大限に活用し、地域住民の方々が地域を新たな視点から眺め、地元への関心を高めるきっかけを作ることを目的にフリーペーパーを作成しています。

企画・取材・編集をすべて学生自身で行い、絵・写真・文章などそれぞれの得意分野を活かし、一年間で一冊を完成させます。また、SNS を通してフリーペーパーの内容や活動の様子も発信しています。

今年度は、フリーペーパーの取材範囲の拡大に加え、地域団体と連携した動画制作にも挑戦しました。

大学生ならではの視点を活かし、地域の魅力を多角的に伝えることを目指して活動しています。

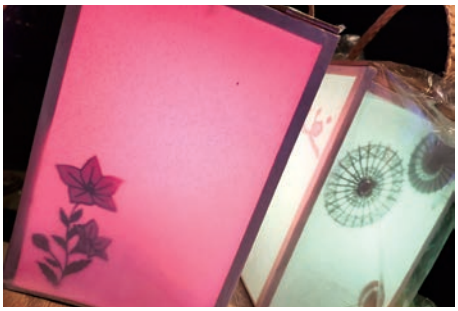
2025年度制作した「nicoful vol.5」表紙

域団体と連携した動画制作にも挑戦

福知山プロジェクションマッピング 2025

福知山プロジェクションマッピング 2025 は、「福知山イル未来と 2025」に参加し、学生と地域住民の交流促進および地域イベントの活性化を目的に活動しました。

今年度は 10 月 25 日、26 日の 2 日間にわたり実施し、来場者に向けて手持ち行燈の貸し出しとプロジェクションマッピングの展示を行いました。手持ち行燈は、来場者が会場内を回遊しながら楽しめるよう工夫したもので、2 日間で延べ 47 組に貸し出しました。また、プロジェクションマッピングの展示により来場者に視覚的な演出を提供し、夜の会場の雰囲気をより深く体験できる機会を創出しました。これらの取り組みを通じて、イベントの魅力向上に寄与しました。


延べ47組に貸し出された手持ち行燈

イベント会場を彩ったプロジェクションマッピング

七福ふっこう隊

「七福ふっこう隊」は、能登半島地震で被害のあった石川県七尾市を中心にサロン活動や視察活動を月に一度行っています。現在の目的は、ボランティアとして能登の皆さんと継続的に関わりながら、地域と住民の皆さんが思う復興へ向けて、役割を考えることです。私たちは、防災や復興には「顔の見える関係が大切」だと考えています。そのため、サロン活動を通して住民どうしの関わりの機会を設けるほか、福知山市周辺で行われる防災訓練や防災系のイベントに参加し、写真展示を通して能登半島の現状について伝えています。また、災害が起こった時に何が必要か考えてもらうために「防災ボトルづくり」にも取り組んでいます。

サロン活動を通して住民どうしの関わりをつくる